

1900

**創立120周年
記念誌**

新潟県立村上高等学校 2020

2020

目 次

創立 120 周年に寄せて

村上高等学校創立 120 周年記念事業	
実行委員長 瀬 賀 弘 行	3
新潟県知事 花 角 英 世	4
新潟県教育委員会教育長 稲 荷 善 之	5
村上市長 高 橋 邦 芳	6
学校長 山 川 徹 也	7
PTA 会長 寶 井 直 昌	8
生徒会長 木 村 勘太郎	9
学校の概要	10
校章・校旗・校歌	12
旧 校 舎	14
現 校 舎	16
分校、定時制の校舎	17
120 年の軌跡	18
編集後記	

母校の大還暦を祝う



村上高等学校創立 120 周年記念事業
実行委員長 瀬賀 弘行

このたび皆様と御一緒に母校の大還暦を祝うことができまして、とても嬉しく思います。1900年（明治33年）5月1日に村上本町三之町で最初の授業が行われました。以来120年、激動の世界の中で運命に翻弄されながらも、その歩みを止めないで参りました。この120年を振り返り、そこから未来への期待を述べてみたいと存じます。

ヘブライ大学の歴史学者ユヴァル・ノア・ハラリは、その著「ホモ・デウス」の中で、「20世紀の中国でも、中世のインドでも、古代のエジプトでも、人々は同じ三つの問題で頭がいっぱいだった。すなわち、飢餓と疫病と戦争で、これらがつねに、取り組むべきことのリストの上位を占めていた」と、述べています。この120年を振り返ってみても、これは真実のようです。第一次世界大戦では当時の世界人口20億のうち、1300万人が戦争被害で亡くなり、同時期にスペイン風邪で5000万人が亡くなりました。第二次大戦では23億のうち、8000万人が死亡しました。食料に関しても、いまだに分配は不平等で、80億人のうち10億人が飢えに苦しんでいます。

「科学」は自然科学であろうと社会科学であろうと、飢餓と疫病の克服に向けてならば、今までに相当な力を発揮してきたと言えましょう。しかし戦争に対してはどうでしょうか。私達は、まことに危うい「核の均衡」の中で暮らしています。これは自然科学の進展が、かえって人類を途方もない危険な道に導いている例のひとつです。科学を、そのままでは善と呼べない理由がここにあります。

そのような中で、私達はどのようなことを心がけたらよいのでしょうか。私は、それは「思いやり」ではないかと思います。自分が他人に何かしてあげて、その相手が喜んでくれれば自分もうれしい。ただそれだけの単純な原理。仏教でいう「慈悲」、儒教でいう「仁」、キリスト教でいう「愛」、みな同じこと。

2020年4月に、コロナウイルスを克服するための医師による国際パネルディスカッションがテレビ会議方式で行われ、全世界に配信されました。中国、イタリア、フランス、イギリスの医師、研究者が参加し、コロナウイルスの性質やコロナウイルス感染症の治療、予防について熱心に議論が行われました。会議の最後に中国人の司会者がイギリス人医師に「これから一番大切なことは何だと思えますか」と質問しました。問われたイギリス人医師は少し考えてから、「思いやりだと思えます」と答えました。それまでは自然科学の言葉だけで話し合われていた学術会議。その最後に一言だけ付け加えられた倫理的なことば。その一言の持つ重みに私は圧倒される思いでした。

「良い高校」の定義はまことに簡単。すなわち、「思いやりを持った人を育てる高校」だと思います。

新潟県立村上高等学校 創立百二十周年にあたり

新潟県知事 花 角 英 世



新潟県立村上高等学校創立百二十周年にあたり、心からお祝い申し上げます。

当校は、長い歴史と伝統・文化を誇り、かつ風光明媚な村上の地に、地域の熱い期待を受けて明治三十三年に創立して以来、「質実剛健」「堅忍不拔」の精神で、確かな学力を身に付けるとともに豊かな心を育む教育を行い、広く社会に貢献する人材を育成し、今日に至るまで二万九千人を超える卒業生を輩出しております。

卒業生の皆様が、県内外の各界や各分野で活躍されておりますことは、歴代の校長先生をはじめ教職員の皆様が、教育に対する情熱をもって、たゆまぬ努力を続けてこられた成果であるとともに、同窓会並びに地域や保護者の皆様による献身的な御支援、御協力の賜であります。ここに改めて、関係各位の御尽力に対し、心から敬意と感謝の意を表する次第であります。

さて、我が国では、グローバル化の進展や絶え間ない技術革新等により、社会構造や雇用環境が急速に変化しており、AIやビッグデータの活用等の新しいテクノロジーが社会や生活を大きく変えていくという予測がなされています。また、未知の感染症の拡大により、私たちの社会の在り方や生活様式には大きな変化が起きており、今後の社会においては、様々な情報や出来事を受け止め、主体的に判断しながら、自分を社会の中でどのように位置付け、社会をどう描くかを考え、他者とともに課題を解決していく力を育成することが求められています。

こうした中、本県では「県民一人一人が学び、成長し、活躍できる新潟」を将来像として掲げ、新潟県総合計画を策定しました。その政策として、課題発見と解決に向けた探究学習の推進や、進路や職業、地域への理解を深めるキャリア教育等の推進などを柱とした魅力ある学校づくりを進めているところです。

教職員の皆様には、今後も時代の要請を踏まえるとともに、地域の発展の担い手となる人材を育てる観点からも、地域が人を育て、人が地域をつくる循環の実現に向けて、地域社会との協働によりこれからの時代に必要な資質・能力を育むことができるよう、一層の御尽力をお願いいたします。

生徒の皆さんは、自然豊かで、伝統あるこの村上の地で学ぶことのできる喜びをかみしめ、堅忍不拔の精神で真理を求めて学び、村上高等学校の新たな伝統を創り出してください。また、学んだことを基礎に自らの可能性を伸ばし、新しい時代を担う若者として、たくましく成長されることを願っております。

結びに、村上高等学校が今後も地域の方々に愛され、地域の方々とともに一層の発展を遂げることを祈念いたしまして、お祝いの言葉といたします。

新潟県立村上高等学校 創立百二十周年にあたり

新潟県教育委員会教育長 稲 荷 善 之



新潟県立村上高等学校創立百二十周年にあたり、お祝いを申し上げます。

当校は、自然の豊かな恵みと城下町として栄えた歴史ある村上の地に、明治三十三年に創立され、以来百二十年にわたり県北地域の前途有為な俊英の学舎としての重責を担い、多くの優れた人材を輩出してまいりました。卒業生の皆様が県内外の各界や各分野で活躍されておりますことは、歴代の校長先生をはじめとする教職員の皆様から限らない情熱と生徒に対する愛情をもって御指導いただいたことに加え、保護者の皆様並びに同窓会や地域の皆様から絶大な御支援と御協力をいただいたことによるものであり、心から敬意を表すとともに、感謝を申し上げます。

近年は、平成二十九年度に文部科学省事業「首長部局等との協働による新たな学校モデルの構築事業」の指定を受け、地域の課題を解決し社会に貢献できる人材を育成するとともに、平成三十年度から県事業「明日の新潟の飛躍につながる魅力ある学校づくり推進事業」の指定校として、大学進学を重視した学究型の高校を目指し取組を進めているところです。また、「真理を重んずる人間になること。真に自分を大切にできる人間になること。よりよい社会を建設する人間になること。」という教育目標の下、質の高い学びと豊かな人間性を育む教育の実践に努めています。

さて、現在は情報化やグローバル化といった社会的変化が急速に進展し、Society5.0 とよばれる、ロボットやAIなど新たな技術を活用した超スマート社会の実現に向けた取組が進められ、私たちの生活は大きな変革の時期を迎えております。また、今まさに地球規模で猛威をふるう感染症により社会や生活様式の変革が求められており、将来にわたり予測が困難な時代を生き抜くために必要な力を、確実に育む必要があります。

このような状況の中で、当校は地域課題の解決等を通じて体験と実践を伴った探究的な学びにより、知識・技能とともに思考力・判断力・表現力等を育むことや、多様な人々と協働しながら新たな価値や解決方法を創造する力を育む先進的な取組を行っており、この取組の成果の普及は県全体の教育の向上につながるものと考えております。

校長先生をはじめ教職員の皆様におかれましては、生徒の夢や希望、地域や保護者の皆様の期待に応えるべく、今後も、生徒の個性や能力を伸ばし、次世代を担う人材の育成に向けて、教育の充実、発展に一層の御尽力をお願いいたします。

生徒の皆さんが活躍する舞台は、地域から世界へと広く開かれており、これからの時代に柔軟に対応し、新たな価値を生み出す感性や創造性が求められています。諸先輩方が築き上げてきた歩みを誇りとして受け継ぐとともに、一人一人が真理を求め、自らの使命を果たすべく充実した学校生活を送ってほしいと願っております。

結びに、村上高等学校が今後も地域や県民の期待に応え、地域の皆様とともに一層の発展を遂げられますよう祈念いたしまして、お祝いの言葉といたします。

祝 辞



村上市長 高橋 邦 芳

このたび、新潟県立村上高等学校が創立 120 周年を迎えられますことを心からお慶び申し上げます。激変する世の中にあって一世紀以上に及ぶ栄誉ある歴史を刻み、記念すべき節目の年を迎えられたことに對し深甚なる敬意を表明いたしますとともに感動を覚えているところであります。

村上高等学校は、明治 33 年 4 月に県立新発田中学校の村上分校として開校以来、進学意識の高まりと地域の期待に応え、県北地域に根差した高等学校として輝かしい歴史を築いてこられました。この間に 2 万 9600 名を超える卒業生を送り出し、それぞれが各界においてご活躍されております。

数多くの素晴らしい人材を輩出してこられたことは村上市民の誇りであり、これもひとえに、生徒一人ひとりのたゆまぬ努力とその熱意と期待に応えてこられた歴代校長先生をはじめとする教職員の皆様方、さらには教育活動を物心両面にわたって支援をしてこられた保護者の皆様、そして同窓会各支部の皆様をはじめとした多くの先輩方や地域の方々のご尽力の賜物と心から感謝申し上げます。

現在、我が国は人口減少や急速に進む少子高齢化社会にあって、持続可能な地域社会の実現を目指しています。そうしたなか、新型コロナウイルスといった未知なる感染症との戦いの中で、感染症の予防や拡大防止と社会活動の両立といった困難な中にありながらも、新たな日常の実現を確立させなければならないといった状況にあります。

このような時代であるからこそ心豊かな人間性を身に付け社会に貢献できる人材が必要とされており、社会のあらゆる分野で、既成概念にとらわれず、新しい発想で多様なニーズに応え、よりよい社会を創造することのできる人材が求められております。

新たな時代を担う人間像として、平成 30 年度よりスタートされました「村高イヨボヤプラン」の取り組みでは、グローバルな視点で地域貢献できる人材を育成し、この活動を通して自ら考え、挑戦し、行動することやコミュニケーション力を育み、確かな学力を身につけることなど、3 年間を通して実践し、心豊かな人間性を身につけ、幅広く社会に貢献できる人へと成長することに繋がりました。現在もこの取り組みが進められております。

高校生活では、平穏な時間を過ごす中において、時には挫折や不安を感じることもあるかも知れません。しかし、困難に向き合うことは、その後の成長や飛躍への大きな力となります。自分と仲間を信じ、真正面から向き合うことで、自己肯定感を高め、変化の激しい社会にも柔軟に対応できる人へと成長していくものと考えます。

本市においても、持続と進化、新たな時代を切り開く「第 2 次総合計画」が折り返し地点を過ぎ、市民一人ひとりが夢や希望を持って暮らすことのできる「やさしさと輝きに満ちた笑顔のまち村上」の実現を目指し、定住人口の増加や地域経済の活性化に引き続き取り組んでおります。

結びに、村上高等学校が輝かしい歴史と伝統を継承しつつ、校訓である「質実剛健 堅忍不拔」の精神のもと、さらなる飛躍を遂げられますよう祈念いたしまして、祝辞といたします。

未来を共に創る人づくり



学校長 山 川 徹 也

村上高校の発祥の地は臥牛山の麓近く（現在の市役所）にあり、江戸時代の村上藩校「克従館」に始まりました。明治維新から明治初期は村上町の有志と鮭産育養所の経営による「村上私学校」及び「町学校」に由来するものと言われており、村上における子弟教育の伝統というものは大変古いものです。

その後、明治三十三年（西暦1900年）四月、県立新発田中学校村上分校として開校しました。明治三十五年四月には、県立村上中学校として独立し、昭和二十三年四月の学制改革により村上高等学校と改称され、今日に至っているというのが本校の沿革の概要です。

本校は、創立以来、着実にその伝統を積み重ね、創立百二十周年を迎えることができました。「文武両道」の理念の下、「質実剛健」「堅忍不拔」の精神で、確かな学力を身に付けるとともに豊かな心を育むことによって、社会の急激な変化にも対応し、様々な課題を解決し社会に貢献する、たくましい人づくりに取り組んできました。

その理念と精神は、今日でも着実に引き継がれ、純朴・温和・実直の校風の中で、明治三十七年第一期卒業生七名を出して以来、これまで世に送り出した卒業生は、二万九千有余名を数え、日本国内はもとより世界各地で広く活躍しています。

本校では、平成二十九年度に文部科学省事業「首長部局等との協働による新たな学校モデルの構築事業」の指定を受け、村上の歴史・文化・資源を素材に、村上を「知る」探求活動をとおして、地域の課題について考える意識を村上から「育て」、さらに国内外に村上の魅力を「伝える」ことにより、地域の活性化に貢献できる人材を育成する学校モデルを研究、実践しました。

さらに、平成三十年度からは、新潟県事業「明日の新潟の飛躍につながる魅力ある学校づくり推進事業」の指定を受け、キャリア教育の視点から、地域から学ぶ探究活動を「村高イヨボヤプラン」として充実させ、地域連携を進め、郷土村上を愛する心を育み、地域課題の解決策を提案することにより地域の活性化に貢献できる人材を育成する教育を推進しています。

創立百二十周年を迎え、この地域の教育の発展に中心的な役割を果たしてきた村上高校の歴史を考えると、先輩方の絶えまざる努力と熱意に深く敬意を表し、感謝申し上げます。今回、同窓会、奨学会の皆様からは格別のご高配をいただきました。寄贈された電子黒板は、本校の教育に大きく資するものであり、関係者各位のご厚情に対し心から御礼申し上げます。

結びに、これまで本校に対して多大なるご支援を賜りました県当局並びに関係各位に対し、心から感謝申し上げますとともに、今後とも変わらぬご支援ご鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。

県北の雄、いまだ健在



PTA 会長 寶 井 直 昌

新潟県立村上高等学校創立 120 周年、誠におめでとうございます。コロナ禍のため記念式典と祝賀会を中止とせざるを得なかったことは誠に心残りですが、これまで記念事業のため御尽力されました瀬賀弘行同窓会長をはじめとする皆様方の御労苦に対して、PTA 会員を代表して心から感謝申し上げます。

本誌への寄稿の御依頼をいただき、創立 120 周年といっても、私自身、本校の歴史について、校舎が現在の村上市役所が建つ旧所在地から田端町の現所在地に移転したことしか知識がないことに気付き、本校の歴史を学ぶことを思い立ちました。そこで、村上市立中央図書館から本校の百年史や周年記念誌を借用して拝読したところ、そこには、明治 33 年に新潟県立新発田中学校村上分校として開校して以来、大正 15 年に生徒が教職員に対して西奈彌羽黒神社例大祭の三が日の授業短縮等を要求したことに端を発して授業放棄するなど約 4 か月にわたり生徒と教職員が対立した同盟休校（学生ストライキ）事件、昭和 45 年には校舎が手狭かつ老朽化のため移転改築の機運が高まっていた中焼失し、同窓会と PTA も新校地購入費の一部を負担して新校舎の移転改築が迅速に進められたことなどのほか、数々の先人たちの足跡が記されており、改めて 120 年という歴史の重みを感じたとともに、これらの事実を知り得る機会を与えてくださった今回の御依頼に感謝しました。

さて、私自身も本校の第 45 回卒業の同窓生であり、平成 5 年に卒業してから 27 年余りの時が経ちましたが、創立 120 年の歴史の中では 4 分の 1 にも満たない時間でも、本校を取り巻く状況は大きく変化しました。平成 14 年に新潟県立村上中等教育学校が開校し、平成 21 年には県内全日制普通科の学区が廃止されたことにより、本校ではない進学校へ進む子どもが増え、また、年々、少子化が進む影響も受け入学希望者も徐々に減少していることもあり、本校の生徒間の学力差が拡大したように見受けられます。しかし、そのような状況の中でも、さすが村高生と感動する出来事を経験しました。先日、本校正門前の道路を自動車で通過しようとした際、横断歩道の端に一人の本校の男子生徒を認めたため横断歩道前で停車したところ、その生徒は、私に向けて一礼して、道路を横断し終えた後振り返り、私に向けて更に一礼した後、校舎に向かっていきました。このような際、横断前に一礼されたことは多々あるものの、横断後に再度一礼された経験は初めてであったため、その生徒の行動に感動したとともに、その瞬間「県北の雄、いまだ健在」という言葉が頭の中に浮かびました。この「県北の雄」という言葉を聞いたことがあるかと本校 2 学年の次女に尋ねたところ、「何それ？」との返答のとおり、現在では耳にしなくなりましたが、かつて、本校とその生徒がそのような呼称されていたことを同窓生であれば記憶している方も多いはず。「県北の雄」という言葉は廃れつつも、前述した男子生徒のように「県北の雄」と呼ぶにふさわしい礼節を重んじる生徒はまだ多いです。今後、本校を取り巻く状況は、更に変化していくものと予想されますが、開校以来の「質実剛健」、「堅忍不拔」の精神や礼節を重んじる心は、未来永劫引き継いでほしいものです。私も、PTA 在会中はもちろんのこと、退会した後は、一同窓生として「県北の雄」たちを見守り続けたいと思います。

120 周年



生徒会長 木村 勘太郎

本年度、村上高等学校は創立 120 周年を迎えました。この記念すべき年に村上高校の一生徒であることを大変光栄に思います。

村上高校は「村上市」という、歴史ある町とともに発展してきました。維新後まもない明治 12 年に旧幕時代の藩校、藩学の伝統を受けついで発足した村上中学校を起源とし、数多の変遷を重ね、昭和 23 年に男女共学の新潟県立村上高等学校となって今日に至っています。生徒の中には、親の親、祖父母も村上高校の卒業生であるという人がいたり、校歌が五番まであったりとその長い歴史を身近に感じることが出来ます。そして今の村上高校は目標大学への現役合格へ向けて勉強することができ、授業が終われば、同じ目標を持つ仲間達との大切な時間である部活動が行えるという高校生にとって、これ以上ないくらい素晴らしい環境が整っています。

私が、実際に村上高校に入学し感じたことは村上高校の生徒は他の学校や社会人にも誇れる力を持っているということです。1つ目は「挨拶の力」です。村上高校の生徒が教員にはもちろん、先輩や後輩にも、廊下ですれ違ったらきちんと挨拶している場面によく出会います。生徒達は当たり前のように思っているかもしれませんが、これは本当に素晴らしいことです。社会人の中でも挨拶がしっかり出来ない人を見かけることがあります。私は、この挨拶が出来る村高を続けていくために、生徒会による朝の挨拶運動を初め自分から進んで挨拶をするように心がけたいと思います。

2つ目の誇れる力は「心の力」です。村上高校は前述したように勉強にも部活動にも力を入れる環境が整っています。どちらか一つに力を入れるだけでも体力的にも精神的にも大変なことは明らかです。しかし、村上高校では、どちらも全力を注いでいる生徒がたくさんいます。体力面、精神面、それを支えている友人たちの「心の力」に私はたびたび驚かされてきました。この2つの力以外にもたくさん隠されている力を持っていると思います。私はその力をもっと見つけていきたいと思っています。在校生の皆さんも、この創立 120 周年という機会に、各々の持っている力について考えてみて下さい。

最後に、今年はコロナウイルスの影響で体育祭が中止になりました。しかし、文化祭と体育祭の良い所を合わせたハイブリッド祭を行います。例年とは全く違う状況下だからこそ、このような新しい取り組みをどんどん生徒会で行っていき、村上高校のさらなる発展に寄与していきたいと思っています。

学校の概要

◆名称・位置

名 称 新潟県立村上高等学校

所 在 地 郵便番号 958 - 0854 新潟県村上市田端町7番12号

電 話 (0254) 52 - 2109(代) FAX (0254) 53 - 3401

◆職員構成

(R2.4.1 現在)

区分	校長	教頭	事務長	教諭	養護教諭	実習助手	講師	非常勤講師	事務職員	職員	図書	スクールカウンセラー	学校技術員	計
人数	1	1	1	25	1	0	1	10	2	2	1	1	1	47

○生徒数

(R2.4.1 現在)

学 年		1 年	2 年	3 年	合 計
学 級 数		4	4	4	12
生徒数	男	75	81	87	243
	女	71	80	61	212
	計	146	161	148	455

◆卒業生数

(R2.3.31 現在)

旧制村上中学校	2,874 名	新制村上高等学校	21,382 名
併設中学校	96 名	同定時制本分校	5,340 名
卒 業 生 総 数		29,692 名	

◆歴代校長

代	氏 名	在職期間
1	安 田 英 吉	明治35. 4. 1~大正元.10.10
2	鈴 木 卓 苗	大正元.10.11~大正 3. 2.17
3	藤 田 良 平	大正 3. 2.18~大正 6. 6. 3
4	金 沢 来 藏	大正 6. 6. 4~大正10. 9.14
5	目 黒 紫 楼	大正10. 9.15~大正12. 5.17
6	井 上 歌 郎	大正12. 5.18~大正14. 4.17
7	川 島 良 平	大正14. 4.18~昭和 2. 1. 7
8	岩 下 雄 三	昭和 2. 1. 8~昭和 5.10.31
9	栗 林 己巳藏	昭和 5.11. 1~昭和 7. 3.31
10	広 瀬 昇	昭和 7. 4. 1~昭和 9. 3.30
11	伏 木 弘 照	昭和 9. 3.31~昭和14. 8.30
12	結 城 伴 造	昭和14. 8.31~昭和20. 2. 7
13	藤 沢 光 雄	昭和20. 2. 8~昭和22. 4.29
14	古 川 台 助	昭和22. 4.30~昭和23. 3.31
15	阿 部 藤 策	昭和23. 4. 1~昭和25. 3.31
16	中 西 中	昭和25. 4. 1~昭和27. 4.30
17	岩 橋 敏 雄	昭和27. 5. 1~昭和29. 4.14
18	森 房 三 郎	昭和29. 4.15~昭和32. 3.31
19	野 俣 好 文	昭和32. 4. 1~昭和39. 3.31
20	関 武 治	昭和39. 4. 1~昭和42. 3.31
21	浅 生 末 三	昭和42. 4. 1~昭和45. 3.31
22	浅 井 祥 朔	昭和45. 4. 1~昭和48. 3.31
23	富 樫 邦 男	昭和48. 4. 1~昭和51. 3.31
24	伊 里 修 一	昭和51. 4. 1~昭和53. 3.31
25	田 辺 啓 三	昭和53. 4. 1~昭和55. 3.31
26	細 野 明 夫	昭和55. 4. 1~昭和58. 3.31
27	菅 原 行 夫	昭和58. 4. 1~昭和60. 4. 7
役職代理	和 田 左 苗	昭和60. 4. 8~昭和60. 4.30
28	大 橋 定 雄	昭和60. 5. 1~平成元. 3.31
29	法 輪 弘 淳	平成元. 4. 1~平成 3. 3.31
30	諏 江 浩	平成 3. 4. 1~平成 6. 3.31
31	井 利 周 治	平成 6. 4. 1~平成 8. 3.31
32	村 越 忠	平成 8. 4. 1~平成11. 3.31
33	吉 田 東 美 雄	平成11. 4. 1~平成14. 3.31
34	丸 田 堯	平成14. 4. 1~平成16. 3.31
35	栗 山 修	平成16. 4. 1~平成19. 3.31
36	登 坂 光 一	平成19. 4. 1~平成22. 3.31
37	市 村 徹	平成22. 4. 1~平成24. 3.31
38	中 野 晋	平成24. 4. 1~平成26. 3.31
39	中 島 郁 雄	平成26. 4. 1~平成28. 3.31
40	関 矢 和 彦	平成28. 4. 1~令和 2. 3.31
41	山 川 徹 也	令和 2. 4. 1~

校 章



「校章」は昭和23年4月に公募された。応募作品が教務室前の廊下に展示され美術の秋山忠勝教諭が中心の選考委員会により竹内功（全2）の作品が入選となった。デザインの意図については、竹内は次のように述べている。

片仮名のラを6ヶ配してムラ、同じくカを3つ配してカミと読み、中央に高の字を置いて村上高等学校を示す。形は全体に六角形で、村上の雪を象り。3ヶのカは同時に三葉の松葉を表わし、若者のまっすぐに伸び行く姿を象徴する。

「同窓の訪れ」28号（昭和53年7月25日刊）で、竹内は「旧制第一高等学校の柏葉章が念頭にあったのであろう」と回顧し、続けて「自主、自治ということに手探りでスタートした。公募することになったのもこのような情勢下であったからであろう」と背景にふれている。

校 旗



「校旗」は、「校章」決定3年を経て昭和27年1月18日に「小林百貨店」に発注している。その年の2月20日、小林百貨店商事部田村謙二氏が「校旗」「代用旗」を持参して納入。経費の半額に当たる2万500円を同窓会から支払ってもらうことに決定している。

「校旗樹立」は、昭和27年3月1日「第4回卒業証書授与式」の式場において挙行された。

創立110周年を記念して同窓会より平成22年10月に新しい校旗を贈呈した。

校 歌

校 歌

法正 泰樹 作詞
朝美 恩正 作曲

豊学界の朝日の子の
 光はいよ、輝きこそ
 真理を求めたゆふなを
 我が使命果しむ
 苦き我が活動の
 舞台は今や開かれ
 安逸の夢をむせはて
 学業に酔はむ時なき
 平原百里こゝにつぎ、
 連峰巍然天を摩し
 北渺茫の海遠く
 シベリア嶺の吹くところ
 三面川はとどろきしに
 清き流の音高く
 海府の浦は千仞の
 崖に千歳の松青し
 あ、浮洲のこの天地
 浮華柔弱の濁なき
 あ、雄壮のよみ山河
 堅忍不校の
 せとあり

此中子校章を以て同窓会に贈呈す
 法正 泰樹 作詞
 朝美 恩正 作曲



☆ 我等が歌 (校歌)

(一) 戦雲今やをさまりて
日出づる國の山の嶺に。
昇る朝日は新しき
我が運命を齎せり。

(二) われら健兒が活働の
加臺は廣し五大州。
安逸の夢はさぼりて
榮華に酔はむ時をらじ。

(三) 平原百見こゝよ遠き
連峯靉然天を摩し。
北溟正の海遠く
西比利亞風吹くところ。

(四) 三河川はとこ一へに
清き流れの音高く。
海府の嶺は千仞の
崖に千歳の松青し。

(五) あゝ清麗のこの天地
浮華柔野の面りなく。
あゝ雄壯のこの山河
堅忍不拔のさとしあり。



トヨサカノボルアサヒコノ
ヒカリハイヨヨカガヤキテ

6	4	3	2	1	1	2	3	4	3	2	1	2	0	
メ	ン	ウ	ン	イ	マ	ヤ	サ	ナ	マ	ヒ	ク			
3	2	1	2	3	3	3	2	2	3	2	1	0		
ヒ	イ	ブ	ル	ク	ニ	ノ	ヤ	マ	ノ	ハ	ニ			
6	6	3	3	3	3	3	1	2	3	2	1	2	3	0
ノ	ー	ボ	ル	ア	サ	ヒ	ハ	ア	タ	ー	ラ	シ	キ	
4	4	3	3	2	2	1	6	6	3	3	1	0		
サ	ガ	ラ	ン	メ	イ	フ	モ	タ	ラ	キ	フ			

「校歌」は明治41年1月に制定されている。「我等が歌」と題されたその歌詞は、片仮名、平仮名で交互に表記されている。1番の歌詞から、あるいは題名からも「校歌」としての意図は、当初なかったのかも知れない。

1番は「センウンイマヤオサマリテ」と日露戦争の終結を折り込んでいます。他は現在の歌詞に類似しているが、当然「歴史的仮名遣い」によっています。

昭和になって「安逸の夢」の次に「を」が入り、「時ならじ」が「時ならず」と改められている。昭和35年4月14日に常に論議されていた「シベリヤ嵐」か「シベリヤ嵐」を「嵐」に決定しているのは、「我等が歌」に従った妥当な指導であったといえる。

かつて、時代や時局を反映するのが「校歌」の特質でもあったので大正期、昭和期には、「1番」がそれぞれ次のように変えられている。

大正期

- トヨサカノボルアサヒコノ
ヒカリハイヨヨカガヤキテ
イマタイショウノオホミヨニ
コクウントミニボツコウス

昭和期 (戦前)

- 豊栄昇る朝日子の
光はいよいよ輝きて
昭和の御代の国民は
東亜盟主の任重し

その後、歌詞の改訂が国語科の教諭によって行われ「1番」の「昭和の御代の国民は 東亜盟主の任重し」は「真理を求めたゆみなき 我らが使命果たしなむ」となり、「光はいよいよ」は「光はいよよ」と変えられていった。

旧校舎



旧校舎



現 校 舎



分校、定時制の校舎



村上高校校舎



岩船分校



荒川分校



関谷分校



高根分校



山北分校

120年の軌跡

明治12年～明治38年

明治12年 (1879)	中学校村上支校設立
明治21年 (1888)	知事認可村上私学校と改称
明治33年 (1900)	4月 県立新発田中学校村上分校として発足 5月1日 開校。寄宿舎開始 5月6日 開校式を挙行、この日を「創立記念日」とする 10月 本校学友会規則制定
明治35年 (1902)	4月 独立して新潟県立村上中学校と称し、初代校長安田英吉、職員18名 10月 校舎1棟及び廊下新築落成
明治36年 (1903)	6月 本校職員職務規程、生徒服装規程等の諸規程を制定 9月 増築校舎落成 11月 運動場として、土地2,906坪買収
明治37年 (1904)	2月 日露戦争始まる 4月 第1回卒業証書授与式 栗林龍太以下 7名 9月 増築校舎落成
明治38年 (1905)	1月 教授法研究会規程、防火規程を制定



明治33年 新発田中学校村上分校
開校式挙行誌と記念の盃



初代校長 安田 栄吉



明治末年 村上町と村上分校校舎

年	科目	時間	講義	演習	実習	修業	試験	備考	学年			
28	3	1	1	1	2	4	2	1	6	7	1	第一学年
28	3	1	1	1	2	4	2	1	6	7	1	第二学年
29	3	1	1	1	2	4	2	1	6	7	1	第三学年
30	3	1	1	1	2	4	2	1	6	7	1	第四学年
30	3	1	1	1	2	4	2	1	6	7	1	第五学年

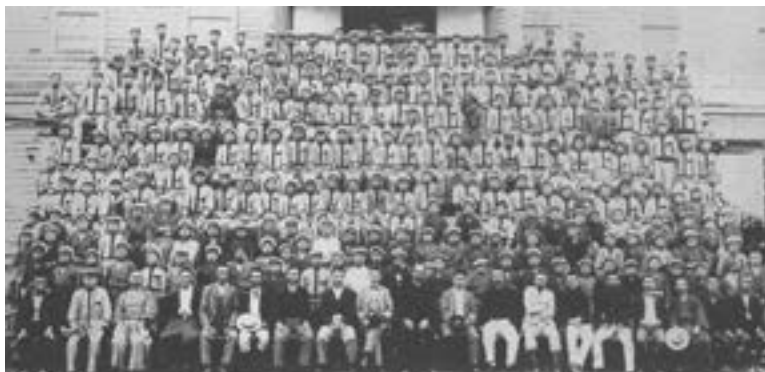
明治34年 教育課程



明治37年 卒業証書 第1号



明治37年 第1回 卒業生



明治35年7月 生徒職員全員写真



明治37年8月 校舎増築



明治36年 生徒服装



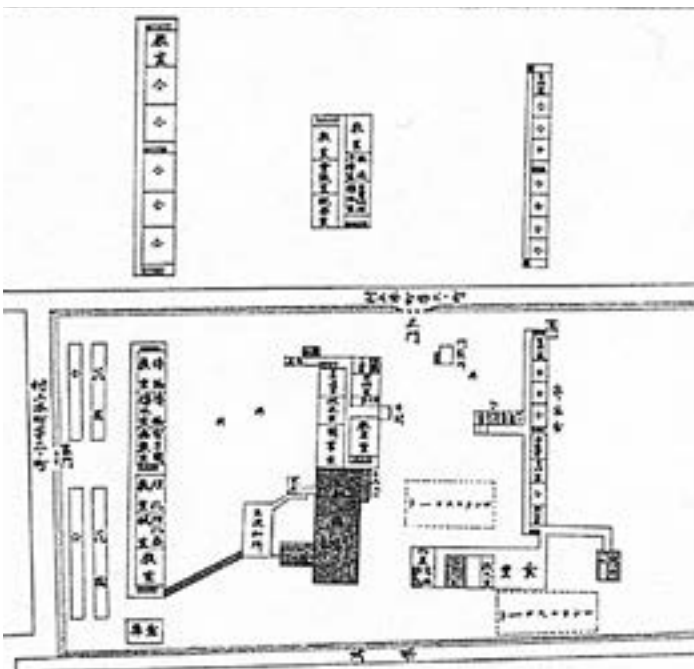
明治38年 第5回運動会

明治39年～大正15年

明治39年 (1906)	3月	第3回卒業証書授与式 第1回補習科修業証書授与式 第6回修業証書授与式
	7月	倉庫一棟新築落成
明治42年 (1909)	5月	村上旧藩主内藤子爵本校巡視
大正元年 (1912)	12月	校舎二階建増築落成 体操場、生徒控室等増築
大正2年 (1913)		郡立村上実科女学校開校
大正6年 (1917)	5月	村上線開通 (大正3年) 後5年 生修学旅行関西方面となる
大正8年 (1919)	4月	官立新潟高校新設
	11月	天秤室増築落成
大正10年 (1921)	3月	村上中学校奨学会発会
大正12年 (1923)	9月	柔道場新築落成
大正13年 (1924)	8月	羽越線全通



大正7年 村上中学校入試問題



明治44年 村上中学校全図



大正期 教科書



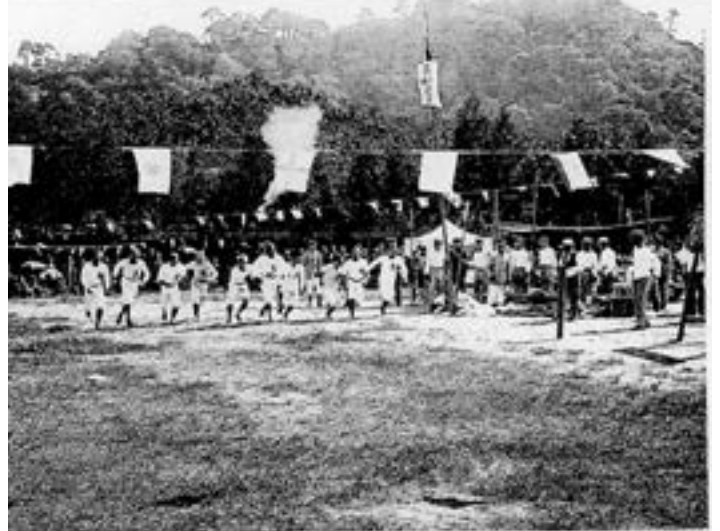
大正期 出勤簿

年	募集人数(学級)	志願者	入学許可	入学者率(%)
明43 (1910)	80(2)	62	62	100.0
明44 (1911)	70(2)	59	59	100.0
明45 (1912)	55(1)	—	55	—
大2 (1913)	55(1)	87	55	63.2
3 (1914)	55(1)	96	55	57.3
4 (1915)	50(1)	93	50	53.8
5 (1916)	50(1)	110	50	45.5
6 (1917)	100(2)	122	82	67.2
7 (1918)	100(2)	88	70	79.5
8 (1919)	100(2)	89	81	92.0
9 (1920)	100(2)	135	93	68.9
10 (1921)	100(2)	210	95	45.2
11 (1922)	150(3)	199	140	70.4
12 (1923)	150(3)	174	137	78.7
13 (1924)	150(3)	147	126	85.7
14 (1925)	150(3)	168	130	77.4
大12 (1926)	150(3)	206	141	68.4
大2 (1927)	150(3)	164	142	86.6

明治43年から昭和2年 村上中学校募集人数と入学許可率



大正2年 土俵開き記念



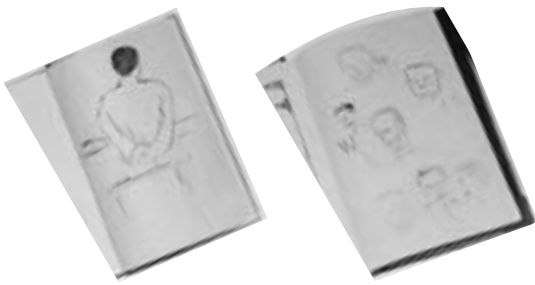
大正3年 運動会



大正2年 第2回水泳部講習記念



大正3年 運動会



大正期 教科書の落書

高等学 校	医学 専門 校	高等 商業 学校	商船 学校	外国 語学 校	高等 工業 学校	高等 農林 学校	高等 師範 学校	師範 2部	台湾 国語	農科 大学 実科	美術 学校	高等 農学 学校	海軍 兵学 学校	士官 候補 生	水産 学校	臨時 教員 養成 所	齒科 医専	早稲 田大 学	慶応 大 学	明治 大 学	中央 大 学	法政 大 学	宗教 諸学 校	慈恵 医院 専門 校	工手 学 校	そ の 他
15	8	5	5	4	12	2	1	24	1	3	1	1	1	7	2	1	1	15	6	14	7	1	2	2	3	1

計141 (内在学77死亡7)

明治38年から45年 上級校進学者数

昭和2年～昭和14年

昭和2年 (1927)	5月	村中文叢創刊
	9月	トラック開き
	11月	自転車小屋新設、博物教室増築
昭和3年 (1928)	8月	プール新設 (学友会の大典記念事業)
昭和4年 (1929)	4月	経済不況により、進学子弟激減 1学級募集減
昭和5年 (1930)	5月	創立30周年記念式(5月6日、 7日、8日式典及び記念行事)
	10月	「村中学苑」創刊
昭和6年 (1931)	4月	御真影奉戴
	9月	満州事変おこる
昭和7年 (1932)	3月	寄宿舍廃止し工作室、郷土室に 改造
昭和9年 (1934)	4月	元郡立農事試験場跡(本町新 町)に借地して農場と農舎を新 築
	12月	同所に農夫室を新築、その一部 を校長住宅とする。
昭和11年 (1936)	8月	米坂線全通
昭和13年 (1938)	4月13日	国家総動員法公布



昭和2年 村中文叢 第一巻



昭和3年 プール起工式



昭和3年 プール建設のための砂利運搬作業



昭和3年 プール開場式



昭和5年 創立30周年記念式



昭和5年 創立30周年祝賀会提灯行列



昭和12年 野外教練出発風景



昭和13年 野外演習



昭和14年 弁論大会



昭和13年 壮行会の応援風景



昭和14年 スキー大会



昭和14年 運動会

昭和15年～昭和20年

昭和15年（1940）	10月	創立40周年記念式 日華事変による同窓会員の戦死、戦病死者21柱の慰霊祭もあわせて行う
昭和16年（1941）	4月	国民学校発足
	12月	太平洋戦争はじまる
昭和19年（1944）	8月	学徒勤労報国隊として、横須賀海軍航空技術廠へ130名をはじめ各地へ出動
昭和20年（1945）	6月	昭和電工鹿瀬工場約80名、村上飛行機工場へ約40名出動
	8月	終戦
	10月	米軍瀬波海岸に上陸
	12月14日	第42回 5年生20名、 第43回 4年生34名 卒業



昭和15年 創立40周年記念式典



昭和15年 学校関係物故者慰霊祭



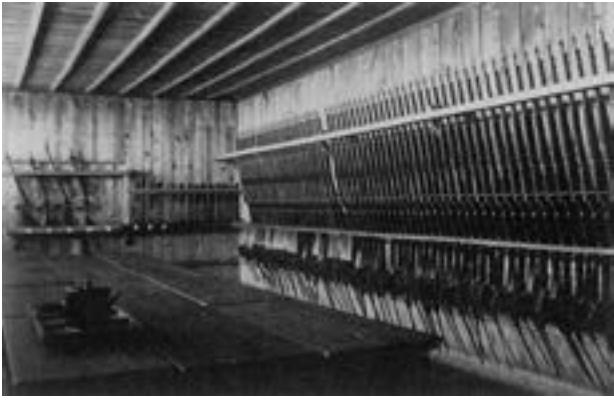
昭和15年 興亜展覧会（蘭印展）



昭和15年 興亜展覧会（満鮮展）



昭和15年 男子の遠泳



昭和16年 銃器室



昭和16年 生垣更新作業



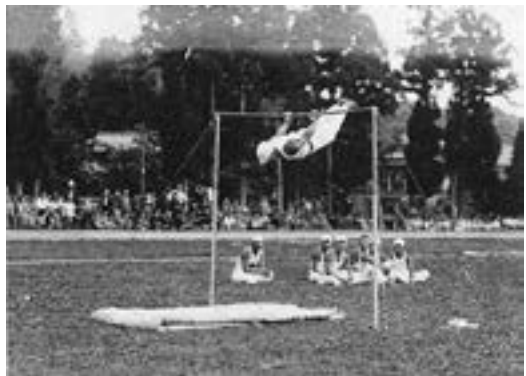
昭和18年 村上中学校滑空班



昭和18年 運動会



昭和18年 村上中学校機甲班



昭和18年 鉄棒競技



昭和19年 坂町機関区入所式



昭和18年 マラソン大会

昭和21年～昭和25年

昭和22年 (1947)	3月	教育基本法、学校教育法公布
	4月	学制改革により、1、2、3年生をもって新制中学校とし、新制高校の発足(昭和23年)とともに併設中学となる
昭和23年 (1948)	4月	学制改革のため、1年生は募集せず、併設中学校は在学中の2、3年生のみ
昭和24年 (1949)	3月	第47回卒業生9名をもって5年制県立村上中学校は終わる
昭和23年 (1948)	4月	学制改革により県立村上高等学校となる
		新制度による併設中学校生150名、高等学校生450名
	6月1日	定時制課程を併設 定時制中心校(昼間)を設ける
	6月12日	村上女子分校開校
	6月30日	高根分校開校
	7月1日	大川谷分校開校
	8月3日	保内分校開校
	8月4日	関谷分校開校
昭和24年 (1949)	3月	新制高校第1回卒業式 卒業生52名
	4月	定時制中心校に夜間部設置 村上女子分校は村上桜ヶ丘高校の定時制課程として移管 岩船分校増設 全日制5日制を実施
昭和25年 (1950)	4月	村上桜ヶ丘高校定時制課程を本校に統合 全日制男女共学を実施、1学年女子55名入学
	10月	創立50周年記念式 記念事業としてテニスコート二面を増設



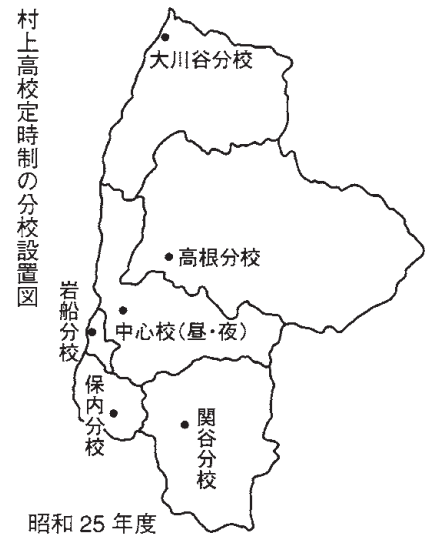
昭和21年
「あをぎり」創刊号



昭和22年 新憲法教科書



高校初代校長 阿部 藤 策



昭和23年価格	昭和25年価格
英和辞典三五〇円、国立大学受験料三〇〇円、郵便料金五円二二円	牛乳二二円、私立大学受験料一五〇〇円、日雇労働者の賃金二六三円
26年価格	
英和辞典三八〇円、郵便料金一〇円・五円	

昭和23年 村上高校定時制合格者数

本校	女子分校	大川谷	高根	保内	関谷	計
88名	26名	97名	88名	79名	26名	404名



昭和 24 年 新制高校第 1 回卒業生



当時の授業風景



昭和 25 年 創立 50 周年学校長式辞



昭和 25 年 創立 50 周年記念植樹



昭和 25 年 運動会 入口



昭和 25 年 運動会 俵かつぎ



昭和 25 年 運動会 ダンス

昭和26年～昭和35年

昭和26年 (1951)	8月	定時制大川谷分校独立校舎落成
	9月	サンフランシスコ講和条約調印
昭和27年 (1952)	3月	校旗樹立式挙行 4教室、その他80坪増築落成
	4月	全日制6日制に復元
昭和28年 (1953)	5月	岩船分校独立校舎建設移転
	10月	定時制課程 創立5周年記念式
	3月	村上市発足 町村合併
昭和29年 (1954)	4月	4教室と昇降口増築落成 全日制6学級募集となる
	4月	定時制大川谷分校校舎移転 旧校舎は分校寄宿舎に転用
昭和32年 (1957)	11月	定時制課程 定時制創立10周年記念式
	12月	県内テレビ放送開始
昭和33年 (1958)	4月	全日制7学級募集 定時制中心校昼間部課程募集停止、4分校は、 大川谷→山北 高根→朝日 保内→荒川 関谷→関川 } と改称
	7月	県北集中豪雨により、山北分校寄宿舎倒壊
昭和34年 (1959)	1月	山北分校寄宿舎落成
	3月	定時制中心校昼間課程廃止
	11月	創立60周年記念式



大川谷（山北）分校校歌



昭和27年制定の校旗



昭和28年移転、岩船分校校舎

昭和28年価格	昭和29年価格
牛乳一五円、私立大学受験料二五〇〇円	日雇労働者の賃金四〇七円
1月22日 臥牛タイムス発刊継続の可否を調査。経費無くなりたる為、一〇円を現在は徴収している。	4月26日 生徒表札代金、一人八円徴収のこと。
可とするもの…五二二	6月30日 学校要覧の印刷完成。一部八〇円、八〇部印刷。
否とするもの…九二一	
第二回マラソン大会、一〇時〇五分出發。加藤善次郎氏よりダットサン一台拝借。薄謝三〇〇円也	



昭和28年 村上高校定時制課程創立5周年記念式典



昭和 29 年 職員写真



昭和 32 年 階段教室の授業風景



昭和 31 年 全員着帽、全員下駄



昭和 34 年 推戴式



昭和 31 年 女子のジャンパースカート



昭和 34 年 7 月 大川谷郷大水害



昭和 35 年 11 月 5 日 「臥牛タイムス」



60 周年提灯行列

昭和36年～昭和42年

昭和36年 (1961)	8月	体育館落成
昭和37年 (1962)	3月	定時制夜間部生徒のための屋外照明施設完成
	4月	全日制課程9学級募集
	7月	定時制夜間部生徒に給食実施
昭和38年 (1963)	4月	全日制課程11学級募集
昭和39年 (1964)	3月	学級増にともない、校舎増築(178坪)
	6月	第19回国民体育大会剣道会場となる。高松宮妃御臨席 新潟地震 校舎、及び教職員、生徒にかなりの被害あり 授業料免除者27名
	9月	県総体女子ダンス部優勝
昭和40年 (1965)	3月	校舎増築 (128坪)
	4月	全日制課程12学級募集
	7月	定時制朝日分校校舎新築落成
	9月	県総体剣道部優勝
	11月	国道7号線竣工
昭和41年 (1966)	4月	全日制課程11学級募集 1学年11、2学年12、3学年11学級、計34学級 生徒数1736名
	9月	県総体女子弓道部優勝
昭和42年 (1967)	4月	全日制課程9学級募集
	6月	県総体柔道部、剣道部共に優勝
	8月	8.28水害、関川、荒川、神林、村上市岩船地区は被害激甚、関川分校生徒1名死亡 授業料免除者227名



昭和35年 体育館建築工事地鎮祭



昭和36年 体育館開きでの各種演技



昭和39年 第19回国民体育大会剣道会場



昭和39年 国民体育大会剣道会場

年度	38年	39年	40年	41年	42年	
学級数	1年	11	11	12	11	9
	2年	9	11	11	12	11
	3年	7	9	11	11	12
計	27	31	34	34	32	
生徒数	1年	576	567	626	565	435
	2年	409	567	561	623	551
	3年	296	403	552	548	611
計	1281	1537	1739	1736	1597	

昭和38年から42年 村上高校学級と生徒数



昭和 39 年 新潟地震



昭和 41 年 7 月 快挙を伝える「同窓の訪れ」



昭和 39 年 新潟地震 (グランド避難)



昭和 42 年度 全国大会出場を果たした柔道部



昭和 39 年 地震で崩れた壁面

計	3	2	1	学年
21	5	6	10	全壊
44	14	14	16	半壊
0	0	0	0	焼全半
1	0	0	1	浸水床上
2	0	2	0	浸水床下

昭和 39 年 地震による生徒の家屋被害



昭和 42 年 全国、北信越、県予選優勝の剣道部



昭和 42 年 水害に遭った岩船分校



昭和 42 年 羽越水害関川分校

昭和43年～昭和48年

昭和43年 (1968)	4月	全日制課程8学級募集
	9月	昭和3年に完成したプール漏水のため取り壊し、グラウンドとして整地
	10月	定時制課程20周年記念式
昭和44年 (1969)	4月	全日制課程7学級募集 定時制山北分校体育館竣工
昭和45年 (1970)	2月	定時制朝日分校体育館竣工
	4月	定時制岩船分校生徒募集停止
	5月15日	第2校舎付近より出火。第2、第3校舎及び生物準備室2113.78㎡焼失
	5月18日	二部授業実施
	5月28日	臨時教室配当をして二部授業は解消
	6月	県総体女子ダンス9回目の優勝
	7月	新校舎建設計画委員会を設ける 元南極越冬隊長西堀栄三郎氏講演会
	11月6日	創立70周年記念式 午後、NHK白鳥アナウンサー講演会、座談会
昭和46年 (1971)	12月	新校舎特別棟竣工
昭和47年 (1972)	2月	新校舎、体育館竣工
	10月	新校舎、普通教室棟竣工
	11月	新校舎での授業を開始
昭和48年 (1973)	8月	新校舎、普通教室棟増築工事竣工
	11月	新校舎竣工式



昭和45年 村上高校火災



昭和45年 村上高校校舎炎上



昭和45年 村上高校火災焼けた教室



昭和45年 全焼した校舎

昭和43年価格	英和辞典七〇〇円、日雇労働者の賃金一四〇〇円
昭和43年5月2日	映画「戦争と平和」学校進修一〇〇円
30日	十勝沖地震慰問会、生徒一〇六五〇円、先生一七五〇円
昭和44年価格	昭和44年1月14日
22日	牛乳二月一日より二円値上げ
3月12日	クラス会は、部屋を暗くすることは認めず、明るいとこで、会費は三〇〇円以内。ギタリは可、エレキギターは不可とする
生徒会費	一〇〇円×一〇か月＝一〇〇〇円を三〇〇円×二月＝七六〇円に承認される
10月8日	映画「ロミオとジュリエット」学校推薦一〇〇円

昭和46年価格	牛乳二八円、日雇労働者の賃金二二一四円
4月21日	高体連泊泊費一五五〇円
47年価格	英和辞典三〇〇円
私立大学受験料	八〇〇〇円
日雇労働者の賃金	二三〇〇円
郵便料金	〇円・一〇円
10月24日	学校長よりPTA役員会の報告、父兄負担の軽減により一人一月二五四円減、信用金庫より五〇万円寄贈
12月7日	学校長より、村上信用金庫より寄附五〇万円の使途について、全額図書購入に全員賛成で決定
48年価格	牛乳三三円、一二月、四〇〇円
英和辞典	六〇〇円
日雇労働者の賃金	二九二円
6月18日	明日から昼休みにロッケタ(一ケ一〇円)を購買で販売
9月8日	クラブ活動設備整備費補助金、英会話クラブのテープレコーダー、卓球台、写真機等二〇万円(内示額)で購入する

名 称	建 坪	延 坪	価 格
女子更衣室、家庭科教室	66.11m ²	66.11m ²	円
第 二 校 舎	503.76	1,007.92	
第 三 校 舎	488.96	977.92	
講堂、第二校舎間渡廊下	23.14	23.14	
第二校舎、第三校舎間渡廊下	33.05	33.05	
体育館、第二校舎間渡廊下	6.04	6.04	
計	1,121.06m ²	2,113.78m ²	37,519,682円

〔内訳〕 普通教室…11室
 特別教室…社会科、美術、同準備室、図書館、書庫、家庭
 科準備室、音楽室、被服室、保健室…9室
 生徒会部室…生徒会室、プラスバンド、演劇、卓球、家庭購
 買部倉庫…6室

昭和 45 年 校舎大災被害状況



昭和 45 年 プレハブ教室



昭和 45 年 創立 70 周年記念誌



昭和 47 年 校舎移転



昭和 47 年 旧校舎最後の学園祭



昭和 48 年 村上高校竣工記念式典

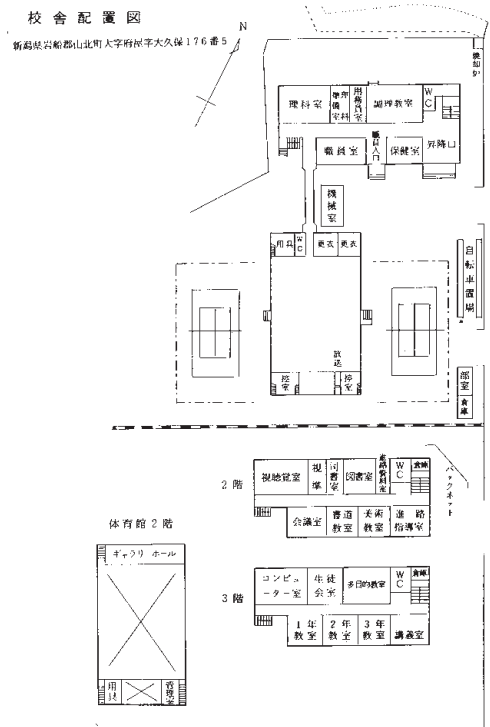


昭和49年～昭和59年

昭和49年 (1974)	4月	定時制朝日分校全日制課程に移 行、定時制課程関川、荒川分校 統合しあらたに全日制課程荒川 分校設置する
	8月	プール竣工
昭和50年 (1975)	1月	小体育館竣工 奨学会館竣工
	7月	夜間照明設備完成
昭和54年 (1979)	3月	荒川分校、新校舎竣工
	4月	同、新校舎移転
昭和55年 (1980)	2月	格技場竣工 山北分校新校舎竣工
	3月	同、新校舎移転
	11月	創立80周年記念式 記念事業として、大場建治氏の 講演会、校門の建設、中庭の植樹
昭和56年 (1981)	2月	山北分校新体育館竣工
	4月	本校、荒川分校各1学級減 定時制生徒募集停止
	8月	荒川分校新校舎竣工記念式
	11月	弓道場竣工
昭和57年 (1982)	8月	女子弓道部インターハイ出場
	11月	県立荒川高等学校設置
昭和58年 (1983)	3月	荒川分校第7回卒業証書授与式 閉校式
	9月	部室増設(4室)竣工
	11月	定時制閉課記念式
昭和59年 (1984)	3月	定時制中心校夜間部閉校
	9月	グラウンド改修及び校舎敷地舗装 排水工事竣工



昭和54年 荒川分校新校舎竣工



昭和56年 山北分校校舎配置図

昭和49年価格	牛乳四六円、英和辞典二〇〇円 日雇労働者の賃金二七七八円 6月27日 進路指導部より、夏季課外 の受講料二科目二〇〇円 (現行一〇〇円)にした。 希望者が多いため、現在の ままでは赤字となるため 賛成、決定
50年価格	牛乳四七円、英和辞典二二〇円 日雇労働者の賃金四〇〇〇円 2月8日 教頭よりカシオの電子計算 機紹介。特別販売。二月二 十日まで、九九八〇円。希 望者は二、三日中に記入願 いたい
51年価格	牛乳五二円、日雇労働者の賃金四八二二 円、郵便料金封書五〇円、はがき一〇円、 2月28日 自動販売機を利用すると六 〇円、店頭で五五円で販売 したい
52年価格	国立大学受験料七五〇〇円 私立大学受験料一五〇〇円 日雇労働者の賃金五一七六円 2月16日 二年生卒業アルバム、本年 度は八〇〇円、年々高 なり今後は考慮の必要あり (アルバム委員の反省より)
53年価格	牛乳五五円、国立大学受験料一五〇〇 円、日雇労働者の賃金五八八〇円 1月25日 生徒会費年額の値上げ(三 七〇円を四八〇円に) を生徒総会で決定。生徒総 会は、風邪罹患生徒が多い ため、教室で提案理由の説 明・討論を行い、体育館で 採決す



昭和55年 竣工した校門のテープカット



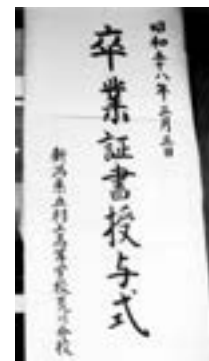
昭和 55 年 創立 80 周年記念式典



昭和 56 年 創立 80 周年記念誌



昭和 55 年 創立 80 周年記念植樹



昭和 58 年 荒川分校最後の卒業式



昭和 55 年 創立 80 周年学園祭



昭和 59 年
定時制閉課程記念誌



昭和 59 年 定時制中心校閉校記念碑 (本校正門左)

昭和60年～平成5年

昭和60年 (1985)	4月	朝日分校募集停止 菅原行夫校長逝去
	5月	菅原行夫校長学校葬
昭和61年 (1986)	4月	本校8学級募集
	10月	高等学校文化連盟への加盟を決める
昭和62年 (1987)	3月	朝日分校閉校
	4月	本校7学級募集
昭和63年 (1988)	8月	初の英語指導助手 (ALT) 着任
	8月	テニス 女子個人、2年連続インターハイ出場
昭和64年 (1989)	1月	昭和天皇崩御 新天皇即位 「昭和」を「平成」と改元
平成元年	4月	山北分校、全学年1学級
平成2年 (1990)	7月	セミナーハウス建設着工
	8月	剣道 女子個人、インターハイ出場
	10月	創立90周年事業として部室竣工
	11月	創立90周年記念式 鶴橋康夫氏の記念講演
平成3年 (1991)	3月	セミナーハウス竣工
	7月	セミナーハウス開所式
	8月	ダンス インターハイ出場
平成4年 (1992)	3月	弓道部、男子、全国選抜大会出場
	8月	ソフトテニス 男子団体、個人、 女子個人 インターハイ出場
	9月	月1回、第二土曜日休業始まる
平成5年 (1993)	2月	ソフトテニス 男女個人、全国選抜大会出場
	8月	ソフトテニス 男女団体・個人、 少林寺拳法 インターハイ出場



昭和60年 菅原行夫校長の学校葬



昭和61年11月 朝日分校閉校式



昭和61年 朝日分校学舎の碑



昭和61年 朝日分校閉校をつたえる新潟日報





平成2年 創立90周年記念式典



平成2年 創立90周年記念で建てられた部室の竣工式



平成2年 完成した部室棟

平成2年 90周年記念運動会



平成2年 90周年学園祭



平成2年 90周年記念コーナー

平成6年～平成13年

平成6年(1994)	8月	陸上競技 男子個人110Mハードル ソフトテニス 男女個人 少林寺拳法 インターハイ出場
平成7年(1995)	4月	月2回第2・4土曜日の休業始まる
	5月	PTA総会にて「後援会」の設立決定
	8月	陸上競技 男子個人 走り高跳び 女子400M ソフトテニス 女子個人 少林寺拳法 インターハイ出場
平成8年(1996)	7月	少林寺拳法 インターハイ出場
	11月	全国読書感想文コンクール 文芸個人5名入選 美術 個人女子 高文連絵画部門県代表
平成9年(1997)	2月	推薦選抜入試制度導入
	8月	ソフトテニス 男子個人 ダンス インターハイ出場
平成10年(1998)	7月	陸上競技 男子個人 5000M ソフトテニス 女子団体・男女個人 インターハイ出場
平成11年(1999)	7月	陸上競技 女子個人 ソフトテニス 女子団体・男女個人 インターハイ出場
平成12年(2000)	7月	弓道 男子団体 ソフトテニス 女子団体・個人 インターハイ出場
	11月	創立100周年記念式 長宗雄氏の記念講演
平成13年(2001)	8月	ソフトテニス 女子個人 インターハイ出場
	9月	グラウンド大規模改修工事竣工
	11月	特別教室棟大規模改修工事竣工



平成7年 コンピューター実習



平成8年 高文連文芸部で最優秀に輝いた文芸部



平成9年 スキー実習



平成11年 男子ソフトテニスインターハイ出場



平成11年 女子ソフトテニスインターハイ出場



平成 12 年 創立百周年記念誌及び百年史



平成 12 年 創立百周年記念碑除幕式



平成 12 年 創立百周年記念式典



平成 12 年 創立百周年記念学園祭



平成 12 年 創立百周年学園祭

平成14年～平成26年

平成14年 (2002)	3月	生徒会誌「新樹」創刊
	8月	ソフトテニス 女子個人 インターハイ出場
平成15年 (2003)	7月	陸上競技 男子個人 三段跳び インターハイ出場
	10月	普通教室棟大規模改修工事竣工
平成16年 (2004)	10月	新潟県中越地震 発生
平成18年 (2006)	3月	山北分校閉校
平成19年 (2007)	7月	陸上競技 4×100MR ソフト テニス 女子個人 弓道 男子 個人 インターハイ出場 美術 個人 全国総文祭 美術・工芸 部門 文化連盟賞受賞 中越沖地震 発生
平成21年 (2009)	8月	ソフトテニス 女子個人 イン ターハイ出場
平成22年 (2010)	8月	ソフトテニス 女子個人 イン ターハイ出場
	10月	創立110周年記念式典
平成23年 (2011)	7月	ソフトテニス 女子団体・個人 インターハイ出場
平成24年 (2012)	8月	ソフトテニス 男子・女子個人 インターハイ出場
平成25年 (2013)	8月	陸上競技 個人団200M 4× 100MR ソフトテニス 男子個 人 インターハイ出場
平成26年 (2014)	7月	ソフトテニス 女子個人 イン ターハイ出場



平成14年 生徒会誌「新樹」創刊号表紙

58年間ありがとう
村上山北分校で閉校式
写真や映像で思い出振り返る

これまで約千九百人の卒業生を送り出し、毎年三月に五十八年に及ぶ歴史に幕を閉じる村上山高等学校山北分校(兼山北分校長二十二)で五日、在校生や同窓生、学校関係者らが出席して閉校記念式典が行われた。

山北分校は昭和二十三年、大田谷分校として、旧大田谷中学校に併設され開校。その二年後には独立校舎に移転し、同三十四年に現在の名称に改称。同四十八年から空日制に移行し、同五十五年現在の校舎に移転した。

約三百四十八人が出席した式典後には、閉校を記念して建てられた同校の沿革と校章が刻まれた記念碑が閉校式が直前に建てられた。

また、記念のアトラクションも催され、在校生らが同校の歴史や学校の活動を「山北分校の記録」としてDVDなどの映像や写真を使って振り返った。吹奏楽部による演奏

平成17年11月 山北分校閉校をつたえる村上新聞

新樹
誌名の由来

生徒会誌「新樹」は平成十三年度(二〇〇二年度)に創刊されました。誌名「新樹」は、村上山校生の歳表と成長する姿を現しています。加えて、二十世紀の新たな出発の時期、百周年を越えて新しい百年を迎える本校の節目に、生徒会誌を創刊できる喜びも込めています。

「新樹」は「一般的に使われる言葉ではありませんが、何物かの詳細には掲載されています。「初夏のみずみずしい若葉を持った樹木」(小学館・日本国語大辞典)がその意味です。また、金子治の作品に「新樹の言葉」という短編があります。その物語の中で、新樹は「過去に囚われず、新しい価値観を持つて生きる人物」を指しているようです。

百年の伝統を誇る我が校ですが、古いものを継承するだけでは「伝統を守る」ことはできません。先輩たちの築いた土壌の上に、自分たちで創造した新しい価値観を付していく新樹のような人間こそ、これからの村上山高校生に求められる人物像なのではないでしょうか。

生徒会誌の由来



平成17年11月 山北分校閉校記念資料



平成 22 年 創立 110 周年記念式典



平成 22 年 創立 110 周年記念学園祭



平成 22 年 創立 110 周年記念 オペラ公演



平成 22 年 創立 110 周年記念学園祭

平成27年～令和2年

平成27年 (2015)	7月	ソフトテニス 女子個人 インターハイ出場
	9月	陸上競技 女子個人 日本パラ選手権大会 100M 1位 (日本新記録)
	11月	陸上競技 女子個人 ジャパンパラ 100M 1位
	12月	陸上競技 女子個人 IPC世界選手権大会 100M出場
	12月	弓道 女子個人 全国選抜大会出場
平成28年 (2016)	7月	陸上競技 女子個人 3000M ソフトテニス 男子個人 弓道 女子個人 少林寺拳法 女子個人 インターハイ出場
平成29年 (2017)	4月	首長部局等との協働による新たな学校モデルの構築事業
	7月	ソフトテニス 男子個人 インターハイ出場
		ライフル射撃 男子個人 全国選手権大会出場
	12月	海外への修学旅行 (台湾)
平成30年 (2018)	1月	村上フォーラム
	4月	村高イヨボヤプラン
	8月	陸上競技 男子個人 五種競技 少林寺拳法 男子個人 インターハイ出場
		ライフル射撃 男子個人 全国選手権大会出場
平成31年 (2019)	4月	天皇退位
令和元年 (2019)	5月	新天皇即位 「平成」から「令和」と改元
	6月	山形県沖地震 発生 村上市府屋で震度6強を観測
	7月	ソフトテニス 女子個人 少林寺拳法 男子個人 インターハイ出場
令和2年 (2020)	3月	新型コロナウイルス感染症に伴う休業
	4～5月	新型コロナウイルス感染症に伴う休業
	10月	創立120周年記念誌発刊

学級数推移 (直近20年分)

年度	平成13	平成14	平成15	平成16	平成17	平成18	平成19	平成20	平成21	平成22
1年	7	7	7	7	6	6	6	6	6	6
2年	7	7	7	7	7	6	6	6	6	6
3年	7	7	7	7	7	7	6	6	6	6
合計	21	21	21	21	20	19	18	18	18	18
年度	平成23	平成24	平成25	平成26	平成27	平成28	平成29	平成30	令和元	令和2
1年	5	5	5	5	5	5	4	4	4	4
2年	6	5	5	5	5	5	5	4	4	4
3年	6	6	5	5	5	5	5	5	4	4
合計	17	16	15	15	15	15	14	13	12	12

高校の学級編成表



平成30年 村高イヨボヤプラン (ポスター)



平成30年 村上フォーラム



令和元年度 進路状況



平成 29 年 修学旅行 台湾



平成 30 年
体育祭



平成 30 年 修学旅行 台湾



令和元年 体育祭



令和元年 修学旅行 シンガポール



平成 30 年
学園祭



令和元年 学園祭



編集後記

新型コロナウイルス感染症の影響で、創立120周年記念式典が中止となりました。本来なら、盛大に挙行するはずだったのに残念です。そんな中、ここに創立120周年記念誌を皆様のお手元にお届けすることができ、記念誌作成係全員が感無量であります。

学校の創世記から現代まで数多くの苦難がありました。どのような時代にあっても真摯に学校生活を送り、堅忍不拔の精神で乗り越えてきた先輩の姿を村上高校健児に伝えたい。そして、校是を大切に、輝ける人、光りを放てる人になってほしいという思いで作成いたしました。そんな思いが伝わったら幸甚です。

また、作成に当たっては、90周年記念誌のスタイルを参考に、100周年史に記載されているものを転載させていただきました。当時の編集委員の皆様へ感謝申し上げます。

最後になりましたが、新潟県知事 花角英世様、新潟県教育委員会教育長 稲荷善之様、村上市長 高橋邦芳様から玉稿を頂戴することができました。この場をお借りして深く感謝申し上げます。

創立120周年記念事業実行委員会

実行委員長	瀬賀 弘行 (同窓会長)	
副実行委員長	遠山 栄子 (同窓会副会長)	小田 兼人 (同窓会副会長)
	寶井 直昌 (PTA 会長)	山川 徹也 (学校長)
	尾崎 克博 (同窓会顧問)	
事務局長	長谷川修一 (同窓会事務局)	
事務局担当	平山 澄枝 (同窓会広報部)	木ノ瀬 勉 (同窓会総務部)
	鈴木 正之 (教頭)	

記念誌係

係 長	圓山 文堯 (同窓会)	
	佐藤さよ子 矢部 常男 奥村 直子 (以上同窓会)	
	大滝 文幸 小林 恭子 (以上学校職員)	

発行 令和2年10月31日

発行 新潟県立村上高等学校
創立120周年記念事業実行委員会

印刷 村上印刷株式会社

表紙絵 脇川 司 (26回生)